

年 組 番
(名前)

<新聞記事から考えよう>190417



「スマホのルール」決めていますか、 守れていますか？

◎記事から読み取ろう

○NTTドコモ モバイル研究所の調査結果によると

関東地方の小中学生親子 500 組の内

スマホ所持 小学生 _____%

中学生 _____%

ルールを決めている _____割

○専門家のアドバイスで大切なこと
[竹内和雄さん]

[中山秀紀さん]



春は進学や入学に合わせて、子どもにスマートフォンを持たせる家庭が増える時期。だが、いじめや犯罪に巻き込まれるリスクも高く、心配事は多い。親子でどんなルールを作り、何に注意すべきか。教育現場の現状や、インターネット依存に詳しい専門家に聞いた。

スマホのルール例
あらかじめ親子で相談。違反した場合にどうするか決めておく

- 時間**
 - 午後何時まで
 - 1日何時間以内
- 場所**
 - 居間だけで使う
 - トイレや自室に持ち込まない
- マナー**
 - 相手の気持ちを考えた言葉遣い
 - 個人情報の扱いは慎重に
 - 知らない人とやりとりしない
- お金**
 - 有料のゲームやアプリは親に了解を得ずしない
 - お小遣いの範囲内で使う



親子で約束話し合おう

小学6年生で22%、中学1年生で65%。関東地方の小中学生の子と親500組に、子どものスマホ所持を尋ねた昨年秋の調査結果だ。実施した「NTTドコモ モバイル社会研究所」によると、スマホを利用している家庭の8割以上で何らかのルールを決めていた。

公立中学校の元教諭で、子どもとスマホの関係に詳しい兵庫県立大准教授の竹内和雄さんは「『何時まで』『1日何時間』といった利用時間や、『居間に限る』など使用場所を最低限、決めておくべきです」と説く。

LINE（ライン）やツイッターなどの会員制交流サイト（SNS）を使うならば「知らない人とやりとりをしない」「言葉遣いに気を付ける」といったマナーを教える。オンラインゲームを認めるなら利用料の制限などを決

める。親子で話し合い、納得の上で具体的に約束するのが大切だ。有害な情報にアクセスしないよう、年齢に応じたフィルタリングは必ず設定を。スマホの基本ソフト（OS）やアプリで制限をかけられる。動画投稿サイト「ユーチューブ」のように子どもに人気のアプリでも、制限を設定できるものがある。

竹内さんは「子どもが好むアプリを親が理解していないと、問題が起きたときに対処できない。深みにはまる前に、相談しやすい関係、環境を整えてほしい」と訴える。

ネット依存専門外来がある国立病院機構久里浜医療センター（神奈川県横須賀市）は、パソコンやスマホの使用ルール作りの要点をホームページに掲載。医師の中山秀紀さんは「自由に使わせるのではなく、リビングなど親の

制限設定忘れずに

目が届く場所で、平日は1時間、休日は2時間以内のように限定しましょう」と話す。

「ユーチューブ」など次々と関連動画が再生できる仕組みは、依存状態を招くリスクが高い。また、発達障害の傾向がある子どもの中には、スマホへのめり込んでしまう子もいるといい、「利用し始めるのを可能な限り遅らせた方がいい」と注意を促す。

依存の手の届く段階として、宿題を忘れたり、遅刻や欠席が重なったり、生活のリズムに乱れが出たりしたら、要注意。「睡眠と起床の時間は必ず守らせて」と中山さん。

ルールを破った場合でも、ただ取り上げては子どもは反発し、逆効果になりかねない。今後はどうするかを親子で話し、双方が納得できる打開策を決めるのが重要という。

(佐賀新聞 2019.4.17 付)

◎広げよう・深めよう *自分や自分の家庭を振り返ろう。

○スマホのルールは

決めている ・ 決めていない

決めたルールは

守れている ・ 守れていない

↓
守れていないのはなぜだろう。

○記事やルールの例を参考にしてルールを点検しよう。

決めていない場合は、決めてみよう。

<点検結果・決めたルール>

◎自分の考えをまとめよう *友達と意見交換したり、家族と話し合ったりしよう。

○スマホ利用について、自分、自分たち、自分たちの周り、社会 というように広げながら考えてみよう。